

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム まごころ 2階	評価実施年月日	平成20年6月23日
評価実施構成員氏名	1F 介護支援専門員兼管理者 押岡郁子 介護リーダー 小桧山ひとみ 介護員 秦登志子 // 常本てる子 // 佐藤章子 // 道下真利子 // 松本容子	2F 管理者 介護リーダー 介護員 // // // //	大垣内のどか 新井カヨ子 山口千賀子 中村希美 川辺育恵 加藤紀美枝 高嶋千鶴子
記録者氏名	介護支援専門員 押岡郁子	記録年月日	平成20年6月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域と共存し、ふれ合いながら地域の一員として役割をになっていくように理念に掲げています。	昨年、新しく地域と共存し共にふれ合いながら、地域一員として役割をになっていくように理念に掲げています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者は日常的にミーティングやスタッフ会議などで運営理念を話し理解して頂いています。 また居室、玄関、事務所等に運営理念を掲げてあり、全職員が共有しケアに反映されるように話し合いながら実施しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には訪問時や行事の時など来所された時には折にふれ伝えていきます。 地域の人々には町内会の行事に参加したり新聞の発行など、広く事業所のことを伝え理解してもらっています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買物に出かけた時に近隣の人と挨拶を交わしたり話しをしたりしています。 犬の散歩の時など立ち寄ってくれたり見学に来てくれます。 徐々に近所の人々とのふれ合う機会は増えています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	住民の一員として町内会に参加しています。 地域の文化祭や祭等には利用者さんと積極的に参加し交流を深めています。 町内会のお花見に招待され参加している。	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアや中学生の総合学習(福祉)の受け入れを行っています。 認知症の理解や接し方、グループホームのケアなど学んでもらっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義は全職員で理解している。 評価に積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かし、また外部評価の結果をふまえ改善計画に取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催しています。 事業所の運営方針や取り組み状況を報告し地域の住民にも理解を深めてもらっています。 また事業所からの報告とともに、参加メンバーから質問・意見・要望を受けサービス向上に活かしています。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者と密に連絡を取り合っています。 事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協議しながらサービスの質の向上に取り組んでいます。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	機会があれば職員に話しているが、現在まで成年後見制度を必要な人は居なかった。	○ 今後、成年後見制度や地域福祉権利擁護など勉強会を開き、理解を深め利用者や家族に情報提供をしていきたいと考えています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が日頃のミーティングや会議の時に、高齢者虐待法について理解してもらっている。全職員が周知徹底している。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明書を口頭で説明し理解してもらっています。 利用者や家族が不安に思うこと疑問等を聞き丁寧に対応し不安のないように十分に納得してもらえるようにしている。 事業所のケアに関する考え方や、出来る事・出来ない事・退去に関する事など、本人、家族と交えて相談している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が意見や要望など出しやすいように、日頃から良い関係を作り運営やケアに活かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月事業所便り、行事の写真また利用者個別に日常の暮らしや健康状態など報告しています。 金銭管理については領収書を添付した出納帳を家族が来所した時、出納帳で確認してもらっています。 職員の異動の時はお便りの中で紹介しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示してあり、事業所内に苦情箱を設置してある。 家族が気軽に意見・不満・苦情を伝えられるように工夫しています。家族が来所された時にも意見・要望等を聞き職員全体で話し合い速やかに対応するなど、運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で職員の意見や要望を聞いている。職員の不満や苦情は把握しきれない部分もあるので、コミュニケーションを心がけ働きやすい環境・意欲の向上、ケアの質の確保に努めています。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	運営理念に添った自由な暮らしを支えられるよう起床・就寝・食事等、利用者のペースに合わせた対応ができるように勤務調整をしている。管理者は利用者の状態の変化や夜間など柔軟に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットの職員は基本的には固定化し馴染みの関係を保つことを重視しているが、離職や新しい職員が入って来た時は十分な引継期間をもうけ、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が交互に実践者研修やグループホーム研修会・管理者研修など段階に応じて受講している。研修後は職員勉強会を開催している。 働きながらのトレーニングとして個別対応やケアに対する情報提供をし、技術や知識を学ぶ機会をもうけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム協議会に加入しており、ネットワーク作り・勉強会・個々のグループホームサービスについて意見交換してケアの向上に取り組んでいる。	○ 今後、相互訪問活動に取り組みたいです。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスについて気を配り十分に話を聞くようにしている。 また勤務時間中も気分転換できる休憩室を確保し、心身を休める場所を提供している。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	労働条件・就業規則・健康診断の実施(年2回)、健康面・職場環境に配慮している。 職員の資格取得を支援し、最後は本人の意向に添ってやりがいがあり、向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の相談があった時は本人に面会し生活状況を把握するようにしている。 本人の不安に思っていることを受け止め安心してもらえるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	今までの苦労や現在困っていることなどを聞き、受け止め、安心してもらい信頼関係を作っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な利用者には家族と相談しながら柔軟に対応している。改善に向けて支援をしているが場合に依っては他のサービスにつなげるなどの対応をしている。(療養型病棟・特養など)		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に事業所を見学してもらう。又、スタッフが自宅に出向くこともある。雰囲気を感じてもらうために、他の利用者さんと交流してもらう等、安心感を持ってもらうよう家族と話し合いながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の立場にたつて不安・苦しみ・喜びを共感し、一緒に生活することで支え、支えられる関係作りに留意している。それぞれの得意分野で力を発揮し自信が持てるような場面作りに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日頃の様子をきめ細かく伝えており、一緒に本人を支えていく関係ができています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の日頃の生活状況などこまめに報告している。また夏祭り・敬老会・クリスマス等の行事の時も案内し、顔を見せて下さいと伝え関係が保たれるように取り組んでいます。	○	疎遠になっている家族には利用者本人を支えるための共力関係が築けるように家族に働きかけをしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々知人や友人が訪問されます。また電話等で交流されています。日頃の散歩や商店で顔見知りの人に会えば挨拶を交わし、近況等話している場面もあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれの役割活動について、できない所は助け合いながら行い利用者さん同士支え合っています。 その日の体調の変化や気分に合わせて、できる事、できない事を見極めながら孤立することなく利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去などサービス契約終了後はほとんど交流はありません。 継続的に関わる必要がなくなってしまう場合が多いからです。 (死亡した時などは葬儀等には参列させて頂いております。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で一人ひとりの思いを把握し言葉や表情からも真意を推すように努めている。本人の気持ちをくみ取り、職員間で話し合い共有し本人の一番望んでいることを知り、希望や意向に添えるようにしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、家族から今までの暮らし振りや家族関係等は把握することができる。 入居後は本人の語りや家族との関係を築きながら、少しずつ情報を伝えてもらうよう努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズム、その日の体調、心理面など総合的に把握するように努めている。 今日できることに注目し、一日を過ぎて頂けるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人には日頃の関わりの中で思いや困っていることを知り、家族には来所の時など要望を聞き、ケアプランに反映させている。職員で意見交換・モニタリングカンファレンスを行い、本人がよりよく暮らすための個別具体的計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	今後運営推進会議に参加してもらい、周辺の介護に関する情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前よりかかっていた病院等、本人、家族の希望を受け入れ継続して受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に家族や職員の話をよく聞いてくれる医師がいるので、相談し指示や助言をしてもらっています。困難な事例の場合は総合病院のメンタルヘル스에相談・受診している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員、訪問看護ステーションの看護師は確保していません。指定病院で日・祭日・深夜など救急の場合、相談し判断してもらい対応しています。	○	訪問看護ステーションは受け入れていきたいと思っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し頻りに職員が見舞いに行き、回復状況を知り、家族とも情報交換をしながら早期退院に結びつけています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	事業所が対応できる最大の支援方法を入居時家族に説明し了承してもらっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度の利用者さんには対応が可能な限り、家族と医療機関と連携をとりながら行っています。	○	ターミルケアは今後の変化に備え重要な事と考えています。事業所として、できる事・できない事を見極め検討したいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は利用者の好みや意向を大切に考え本人が自宅と同様に嗜好品を楽しんでもらえるよう支援している。タバコについては職員が預り本人の様子をみながら、他の利用者に迷惑のかからないよう決まった場所で吸ってもらうよう工夫している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は紙パンツではなく、下着に紙パットのみを使用しています。自宅でオムツを使用していた利用者さんも排泄パターンを把握しトイレ誘導をしています。紙パットの使用量も減り可能な限りトイレで排泄してもらっています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴支援を行っている。浴室は広々としており、仲の良い方同士は一緒に入りゆっくりと楽しみながら入浴して頂いています。シャワー浴は希望に依り、いつでも自由に対応しています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中は活動を促し、その人の生活リズムを整えて安眠できるように工夫している。寝ない時は添い寝や温かい飲物など飲みながら、おしゃべり等して安心して就寝できるよう配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとり得意分野を把握しお願いできそうな事を見つけ、してもらっています。褒め言葉・感謝の気持ちを伝え持てる力を発揮出来る様働きかけています。外出や行事の参加は利用者さんと相談しながら行っています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいます。自分で管理できない人は事務所で預って、外出や買物の時のお金は自分で払っていただけるように職員が支援しています。	○	近くのスーパーでお菓子やタバコ等買っている。買物ツアー等行事に入れている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や利用者のその日の体調に合わせて日常的に外出支援を行っています。散歩・地域の商店への買物・ドライブなど季節を肌で感じてもらっています。歩行状態の悪い方も車イスやシルバーカー等で本人に合わせた支援をしています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が行きたい所がある時は可能な限り思いが叶うよう家族などと相談している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は自由にかけられる場所に設置してあり日常的にかけています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人がいつでも訪ねて頂けるよう来やすい雰囲気づくりをしている。笑顔で対応しお茶等を用意し、居室やロビー等で遠慮なく本人と家族だけでゆっくり過ごしてもらうようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ会議などで身体拘束は行わないということを全職員が徹底して確認している。また、日々のケアを利用者側の立場で振り返って自己点検するように取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	チャイムが取付けられているが見落とす事があるので、職員の見守りを徹底し、外に出たくなる場面や様子を察知することで鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はフロアに居る職員が全員の状況を見守り把握している。 夜間帯は居室が見通せ利用者さんの様子が確認でき、起きてきたらすぐ対応できる廊下のソファで休むようにして安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて対応しています。 薬品や洗剤、刃物、ライター等は保管管理をしています。 利用者が使う時は注意し見守っています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	現在の利用者の状況を把握し、事故を未然に防ぐよう職員間で検討し取り組んでいる。 ヒヤリハットを記録し職員間で共有し、今後の予防対策を行っています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急救命、蘇生術の研修を受講しており、全職員が対応できるようにしています。 夜間はマニュアルを作成しています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保・消火器の使い方など定期的に行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に事業所の取り組みを説明し安全を確保しながら、自由に暮らしていく大切さを丁寧に説明しています。 予測されるリスクを家族に率直に話し、理解が得られるように努めています。 状況が変化する都度繰り返し伝えていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの利用者の状況は全職員が把握している。体調の変化・食欲や顔色など見逃さず、早期発見に取り組んでいる。対応については職員間で共有し観察・記録をとり医療受診につなげています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルはいつでも見れるように個別に整理しており、職員が内容を把握出来る様にしてある。薬の処方が変わったりした時は、申し送り事項欄に記入し確認をとっています。服薬時は本人に手渡し、飲んだか確認しています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックをしています。便秘予防として水分・食量・繊維質の多い食材乳製品など提供しています。また、散歩など身体を動かすよう声掛けしています。下剤は排便チェック表で確かめ、何日も無い時のみ使用しています。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後歯磨きの声掛け見守り、介助にて清潔保持に努めています。就寝前は口腔ケアと共に義歯の洗浄も行っています。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの一日の食量や水分量を記録しています。また、糖尿病等食事制限のある方など個別対応しています。(量質)定期的に地域の栄養士さんにアドバイスをもらっています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症については地域で実施する講習会に出席するなど情報収集を行い予防対策に努めている。また、家族の了解を得てインフルエンザの予防接種を利用者・職員が全員受けており、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用し予防しています。	○ 外出後のうがい・手洗いの励行 暖房・トイレ・居室の手摺など消毒はこまめに行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・フキン・調理器具食器は毎日消毒しています。冷蔵庫も点検し、食材の鮮度を確認し冷凍したり捨てたりしていますが、買い置きは極力避け、毎日買い物に行き新鮮で安全な食材を使用するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口に解りやすいように案内板を掲示してある。玄関はスロープもあり、明るい雰囲気になるように花壇やプランターに花などを置いて、季節感を出している。また、広いサンルームにベンチ等を置き気軽に立ち寄ってもらえるよう工夫してある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関・廊下・台所など事業所全体が広々とした空間になっている。フロアには利用者の作品が飾られたり、所どころに季節の花を置き季節感を取り入れている。 朝の光、料理を作る音や匂い、心地よい音楽など、自然に五感への刺激にもなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にみんながくつろげるソファが置いてあります。 玄関ホールには、仲良い利用者同士や一人で過ごす場所として椅子とテーブルもあり、それぞれくつろげるスペースを作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具・仏壇・思い出の品が持ち込まれています。 自分の生活スタイルに合わせた馴染みの物など用意され、安心して過せるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節は利用者の様子を見ながらこまめにしています。 空気の入替えは一定の時間帯に行い、トイレ等は換気扇や消臭剤で悪臭が出ないように配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺・浴室・トイレ等、利用者の状態にあっているのか、使いやすいのかを見直しながら、自分の力を活かして自立した生活が送れるように工夫している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱を招いた原因を知り職員で話し合い、本人の不安を取り除くなど、認識違いや判断ミスを最小限にして、不安や混乱をなくし元の力を取り戻せるよう配慮している。	○ 縫い物・食事の準備・掃除・洗濯干しなど、一人ひとりのわかる力を活かしている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先にベンチを置いて利用者が日光浴ができるようにしている。又、庭に花を植えたり菜園の草取りをしたり、利用者が日常的に活動できるようにしている。	

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない 	利用者の要望に耳を傾けて、利用者本意のサービスを心がけている。納得いくまで話しを聞き対応している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない 	理念に基づきゆとりと安らぎのある暮らしを支援している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	一人ひとりに合わせ個別支援をしています。自由に自分のペースで生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	職員の声掛けや支援により生き生きとした表情や姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	散歩・買い物・ドライブ・外食等希望に添って行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	毎日のバイタルチェック・定期健診を行っている。気付き・見守り・観察などで不安なく過している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	その時の状況により柔軟に対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない 	家族とはコミュニケーションを密にし、来所の時など日常の生活を報告したり要望を聞いたり信頼関係ができています。

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない 	ボランティアさんの来訪や地域の人が犬の散歩などの時立ち寄ってくれ、利用者さんと対話している。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない 	運営推進会議を通し地域との交流が深まり、事業所の事も理解してもらい交流も深まってきている。
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない 	職員同士がコミュニケーションを取りながら知識を交換し働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない 	日々の生活・食事・行事等に満足されていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない 	家族の来所も多く、行事の案内等も参加されるので満足されていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

地域と共存し地域に向けて情報誌を発信し、グループホームを地域の多くの人に理解してもらう。
本人主体でその人らしい生活が送れるよう支援している。